

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」
事業実施報告書

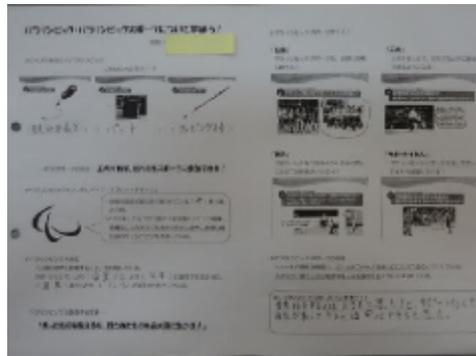
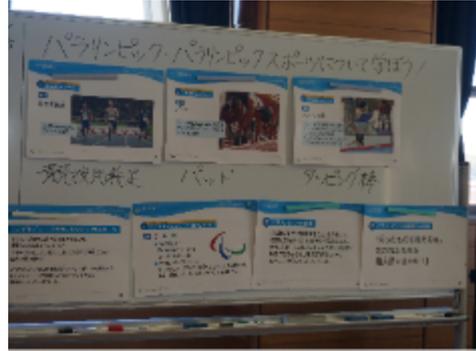
- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 茨城県 】

学校名【 古河市立小堤小学校 】

1 実践テーマ	I・V
2 実施対象者 (学年・人数)	第6学年1組 34名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (道徳) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	・オリンピック・パラリンピックについての学習を通し、それらの意義や歴史を学ぶとともに、大会やスポーツ全般についての興味・関心を高める。 ・パラスポーツを実際に行い、パラスポーツの難しさや楽しさ、スポーツを公平に実施できるようにするための工夫などについて学ぶ。
5 取組内容	<p>☆事前学習①「公平ってなんだろう？」 (I'm POSSIBLE、ワークシートを活用)</p> <p>○パラリンピックについて知っていること ○パラリンピックの映像を見ての感想 ○パラリンピックの「勇気」「強い意志」「公平」「インスピレーション」の4つの価値について学ぶ。 ○4つの価値の中から「公平」を取り上げ、場面を想定して考える。</p> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>2年1組のしょうたさんは、車いすを使っています。運動会で2年2組と玉入れの勝負をします。どのようなルールだと、みんなが楽しく競い合えるだろう？</p> </div> <p>・しょうたさんが玉入れをする時、難しいことは？ ・どんなルールだと楽しく競い合えるか？ ・ルールを決める時に、気を付けることは？ ○授業の振り返り</p> <p>☆事前学習②「パラリンピック・パラリンピックスポーツについて学ぼう」 (I'm POSSIBLE、購入した書籍、ワークシートを活用)</p> <p>○パラリンピッククイズ（パラリンピックで使われている用具について） ○パラリンピックのシンボルマーク「スリー・アギトス」について学ぶ。</p>

- パラリンピックの歴史と変化について学ぶ。
- パラリンピックスポーツクイズ
 (「記録」「工夫」「用具」「サポートする人」の4つの観点から)
- パラリンピックスポーツの価値について学ぶ。
- 授業の振り返り



☆事前学習③「ゴールボールをやってみよう！」(I'm POSSIBLE を活用)

- ゴールボールのルール説明、プレー動画の視聴
- ルールの確認
- 競技で使用する用具の確認

☆体験学習「ゴールボールをやってみよう！」

- 8人または9人1チーム×4のチーム編成
- 4分×3セット 計12分を1試合実施
- グループ毎に、プレイヤー3人、ボール係3人、得点係1人、実況係3人、審判係1人の役割をセット毎にローテーションで行う。
- 授業の流れ…コートやライン、ルールの確認→グループでの投球・捕球練習→試合
- 授業の振り返り





☆事後学習「パラリンピック・パラリンピックスポーツについての学習を振り返って」(ワークシート活用)

- ゴールボールを体験してみて、感じたことや考えたこと
- パラリンピックやパラリンピックスポーツについて、学習する前と学習した後で自分の中で変わったことや、もっと知りたいと思ったこと
- ゴールボールをもう1度やってみよう。

6 主な成果

- ・学習前にはパラリンピックやパラスポーツについてあまり興味、関心がない児童が多かったが、学習を通し、関心や興味が出てきた児童や、もっと様々なパラスポーツを体験してみたいという意欲が出てきた児童が増えた。
- ・「体が不自由＝大変、可哀想」というイメージをもった児童が多かったが、パラリンピックの意義や公平さを学んだり、パラスポーツを実際に体験したりすることで、パラアスリートのすごさや、誰もがスポーツを楽しむことができる工夫を知ることができた。また、ゴールボールでは、アイマスクをして視界がない世界を体験することで、実際に目の不自由な人と出会った時に、どのような声かけや配慮が必要かを考えることができた。

〈振り返りカードの児童の記述〉

- ・ゴールボールをやってみて、目が見えなくて少し怖かったけれど、テープのでこぼこをたよりにプレーできた。
- ・音をたよりにボールをキャッチするのが難しかった。
- ・自分でもパラリンピックのことを調べてみたい。
- ・障がいのある人でも安全に、楽しくできるようなルールの工夫があった。
- ・授業を受ける前はパラリンピックの名前だけを知っているだけだったけれど、学んでみて、パラリンピックに出ている人は失ったものを補うために、自分に残されたものを最大限生かして運動していて、なんだってできるんだなと思った。

7 実践において工夫した点(事業の特色)

- ・東京オリンピック・パラリンピックが開催され、様々な国や地域の人や身体に様々な特徴がある人との関わりが増えたとき、何ができるかを考える時間を設けた。(古河市は地理的に東京へのアクセスが良いため、関わりをもつ機会がある可能性が高いため。)
- ・ゴールボールを体験する際には、実際のコートと同サイズにしたり、触って立ち位置が分かるラインを引いたり、実際の競技環境に近づくような工夫をした。また、ゴーグルをアイマスクで代替したり、ボールを少し柔らかいものにしたりと、児童の実態に合わせ、児童が取り組みやすい物に変更した。

8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・パラリンピックやパラリンピックスポーツは、オリンピックやオリンピックスポーツに比べ、身近に感じている児童が少なかった。より身近に感じられる学習の工夫として、パラアスリートやパラスポーツの経験者の方の実際の声が聞けると良い。 ・パラスポーツの競技内容について知識が無い児童のために、実施する競技以外にも様々なパラスポーツの動画を視聴する時間を設けると良い。
9 来年度以降の実施予定	<p>今年度はパラリンピック・パラリンピックスポーツ学習の実施は6年生のみであったが、来年度以降は各学年で、学年の実態に応じて内容を変えて取り組みたい。また、今年度の当初の計画では、下級生が上級生に教えてもらいながらゴールボールやボッチャを体験する異学年交流の時間を設けていたが、コロナ禍の状況を鑑み、中止した。来年度以降、状況を見ながら実施していきたい。</p>